

自家水道システムで攻勢

工場・病院・店舗向け

井戸水源、BCP対策にも

アクアテクノシステム

自家水道・製造用水システムを展開するアクアテクノシステム（福岡市、渡邊敏之社長）は工場、病院、店舗向けに需要を深耕する。上水（公共水道）を大量に使用する事業者を対象に、水道料金のコスト削減と水源二元化によるBCP（事業継続計画）対策が可能となるシステムを提案する。水源となる井戸の掘削工事からプラントの設計・設置、メンテナンスにいたる設備管理業務全般を請け負う。同システムの今年度売上高は16億円を超える見通しで、3年以内に20億円を目標に事業を拡大。将来的には未進出の名古屋、広島エリアにも展開し、全国をカバーできる体制を構築する。

全国展開も視野



例への導入プラント

5年から15年が標準。契約終了後は更新手続きが必要になるが、更新率はほぼ100%という。

井戸の掘削は地下100以上の深井戸が対象。地盤沈下の問題もなく、水量、水質ともに安定供給を可能としている。万が一、井戸水が枯渇した場合は、同社が無償で新しい水源を探し、一連の工事を行う。地下水の濾過には、半導体の洗浄などにも使用されているウルトラフィルターを採用し、高品質な水を供給する。井戸掘削からプラント工事、許認可取得まで通常約4カ月で給水可能。アフターフォローも万全で、月1回の水質検査も含めた完全24時間フルメンテナンス体制を構築する。

上水を大量に使用する業者が従量料金制によるスケールメリットを受けられない点や自治体ごと

に異なる料金設定により、必要以上にコストがかかっているという。

同社は上水よりも安い価格で供給。上水道単価が1斗当たり200円以上か、月間60万円以上の場合、コスト削減となる。たとえば月間5千斗の水量を使用する事業者の場合、上水道で1斗当たり350円だが、同社のサービスでは同250円となり、月175万円だった水道料金が125万円まで下がる。

また、自然災害や水道管の老朽化などにもない、企業にBCP対策を求める自治体が増えるなか、同社のシステムをメーン水源とし、既存の上水をサブ水源として利用する水源の二元化を推奨する。同システムの需要は年々増加しており、化学工場や病院、ショッピングセンターなど100件を超える実績を持つ。

初期投資することとなるEPCO方式を主に展開。水道料金を削減でき、EPCO方式を主に展開。アクアテクノシステムが金融機関から資金調達が金銭機関から資金調達し、担する。支払いは水量の達し、工事資金などを負担する。総量のみで、契約期間は